

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



お茶会のこと

やっと日中の気温が5度以上になり出したドイツですが、桜はまだまだ咲きません。きつと咲くときは一気にいろんな種類の花が咲くでしょう。百花繚乱という言葉がふさわしい風景が見ることが出来るかもしれないと今から楽しみにしています。

ドイツの語学学校や幼稚園では学期の最後の日にみんなで軽食を持ち寄りお茶会をします。小学校やギムナジウム（中学・高校一貫の学校）の経験はまだないのでどうかは分かりませんが、自分の誕生日の日にケーキや軽食を学校に持参してクラスメートに振る舞うという事はしているようです。ドイツでは自分の誕生日に職場の同僚やクラスメートにケーキを振る舞う習慣があるのです。会社になると自分が正規採用されたときのお披露目、自分が退職するときのお別れ会なども自分で主催して同僚にワインやケーキを振る舞ったりするようです。このようにイベントとケーキは切り離して考えることが出来ないのです。



先日、息子の通う幼稚園でも持ち寄りのお茶会がありました。去年までは夏休み前とクリスマス前の年2回のみで、イースター休暇明けには無かったのですが、今年は新しく始まった音楽教室に参加している園児の成果発表会がありその後にお茶会があったのです。

毎回数種類のケーキ、マフィン、クッキー、サラミ、チーズと並びます。中国人や韓国人のクラスメートがいるときは春巻き、チヂミなど甘い物も有りましたが、彼らが帰国してしまったここ1年は甘い物がメインになっていました。幼稚園なのにそんなに甘い物を食べさせるなんて！と思うかもしれませんが、きつとイベントなどは特別なのでしよう。私はお菓子が好きなので、「こんなにたくさんケーキなんてステキ」と思いましたが、喜んだのは最初の1回目だけ。もちろん美味しいのですが、ドイツのケーキは生地がどっしりしていて重く、なおかつ1切れが大きいのです。日本では15cm型、大きくて18cmのケーキ型ですが、こちらは小さくて21cm、大きい物だと30cmクラスのケーキ型で、日本のレシピを使ったときは倍量で作ってやっと小さい型にびったりというビッグサイズ。いくら美味しくても、そんなにケーキばかり食



シュトゥットガルトの代表的な公園のひとつ、Schlossplatz。

べられません。私も毎回同じ物にならないように色々作りましたが、どんどんネタがつきてきます。そこで今回はみんなが食べられて、簡単に作れるエビチップスのもとをアジア食材店で買って、家で揚げて持って行きました。3リットル用のタッパーに山盛り持って行ったのですが、気が付いたときには残っていませんでした。みんなの口に合ったようで嬉しかったです。「ヤッパリみんなも甘い物ばかりで飽きてたんや」と思いつつ、それでもお茶会にはケーキがあるほうが嬉しく感じるのです。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞